

笹川保健財団 研究助成

助成番号：2020A-107

(西暦) 2021 年 1 月 7 日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度笹川保健財団研究助成
研究報告書

標記について、下記の通り研究報告書を添付し提出いたします。

記

研究課題

一般市民への老衰死に関する意識調査

所属機関・職名 国立病院機構東埼玉病院 内科・総合診療科医長

氏名 今永 光彦

1. 背景と目的

わが国の高齢者人口は急速に増加しており、本格的な高齢社会となっている。また、1996年には47万人であった90歳以上の人口は、2012年は150万人を超え、2043年には560万人を超えると推計されている。高齢者人口が今後加速度的に増加していくにあたって、高齢者に対する治療指針やターミナルケアのあり方を確立させることの重要性を指摘する声もある。そのような高齢者に特徴的な死因の1つに老衰死がある。実際に老衰死亡者数は著増しており、2008年には約36000人ほどであったのが2018年には100000人を超えており、死因の第3位となっている。この傾向は今後も続くことが予測されている。老衰は高齢者の終末期像であり、そのような状態にどのような治療やケアを行っていくのかは、高齢者の緩和ケアを考えるうえで重要なテーマであると考えられる。近年マスメディアでも老衰や老衰死をテーマとした報道がなされており、老衰・老衰死に対する市民の関心も高まっていると言え、社会的にも重要なテーマであると言える。しかし、老衰死に関して医療者や市民の間で議論が深まっているとは言えない状況がある。我々はまず、医師の老衰と診断する思考過程や診断における現状が明らかでないことに着目し調査を行った。はじめに、在宅医療において医師が死因として老衰と診断する思考過程に関する探索を、フォーカスグループによる質的研究で行った¹⁾。4つのカテゴリー及び13のサブカテゴリーを描出し、死因として老衰と診断するにあたり、医師も様々な不安や葛藤のなか、医学的な部分以外も重視して判断していることが示唆された。次に、質的研究の結果をもとに質問紙票を作成して、全国の在宅医を対象とした量的研究を行った²⁾。その結果、在宅医は、患者の家族の理解や考え・患者のQOLなど医学的側面以外の影響をうけながら、継続的な診療、緩徐な状態低下、他に致死的な病気の診断がないことを重視して老衰の診断を行っていることが明らかになった。

しかし、老衰死に関しては医療者のみで論じることに限界があるテーマであると考えられる。実際に前述した量的研究の結果からも、患者の家族の理解や考えなどが診断に影響していることが示唆されている。老衰死をどのように考えていくのか、また老衰と考えられるような状態となった時にどのような医療を望むのか、どのような医療が適切であるのかなど、市民と共に議論していく必要があるであろう。現状では、一般市民が老衰死についてどのように考えているのかについては明らかにされていない。本研究は一般市民の老衰死に関する意識を明らかにすることを目的とする。具体的には、大きく分けて二点について明らかにすることを目的とする。一点は、一般市民が「老衰で亡くなる」ということに対してどのようなイメージを持っているかである。もう一点は、老衰と考えられる状態となったときにどのような医療を希望するかについてである。また、老衰を死亡診断時の死因として妥当と感じる人・感じない人には、どのような特性の違いがあるかについて明らかにする。

2. 方法

対象

インターネットリサーチ会社（GMO リサーチ）に登録しているウェブモニターから40歳以上の人を選択し、平成27年国勢調査の地域・性別・年齢の人口構成比に応じたサンプルである1003名を対象とした。

対象者から参加の同意を得る方法

調査への同意については、調査概要と目的、個人情報保護、データの匿名性、回答を研究目的に使用することについて、アンケートの冒頭に記載した。「同意する」「同意しない」の選択肢を用意し、対象者が「同意する」をクリックした場合に同意が得られたものとした。

研究の実施方法および評価項目

対象に対して、インターネットによるアンケート調査（無記名式）を行った。調査は前記の民間調査会社に委託され実施した。アンケートは調査会社からアンケートモニターサイトに配信され、調査対象者がアンケートサイトにログインし、任意でアンケートにアクセスしたときに回答が可能となり、回答終了後、回答者によりインターネットを介して回答結果が調査会社へ送られた。アンケートの各質問項目を評価項目とした。下記に概要を記す。（詳細は資料を参照）

評価項目：

1. 「老衰で亡くなる」ということに対するイメージ

- ① 安らかな死と感じるか（5件法）
- ② 十分な医療が受けられていないと感じるか（5件法）
- ③ 死亡診断時の死因として妥当と感じるか（5件法）
- ④ 年齢的な目安（選択肢を提示）

2. 老衰と考えられる状態となったときに、どのような医療を希望するか

シナリオ提示を行い、下記の質問に回答してもらう。

- ① 検査をどこまで行ってほしいか（選択肢を提示）
- ② 治療をどこまで行ってほしいか（3件法）

経管栄養（経鼻胃管、胃瘻）、心肺蘇生、点滴、肺炎合併時の抗菌薬投与について

- ③ 看取りの場の希望（選択肢を提示）

上記に対して、シナリオの患者が自分だった場合と家族だった場合の2通りを質問した。

3. 死生観について

死生観尺度³⁾のうち、「死からの回避」、「死への関心」の質問項目を回答してもらった。

4. 対象者の特性

年齢、性別、居住地域、信頼しているかかりつけ医がいるか、身近な人の介護経験、身近な人の死の経験、職業（厚生労働省職業分類に準ずる）について質問を行った。

分析

各項目について度数分布を用いて記述統計を行った。また、1③の質問である「老衰を死亡診断時の死因として妥当と感じるか」の回答と、死生観尺度や対象者の特性との関連

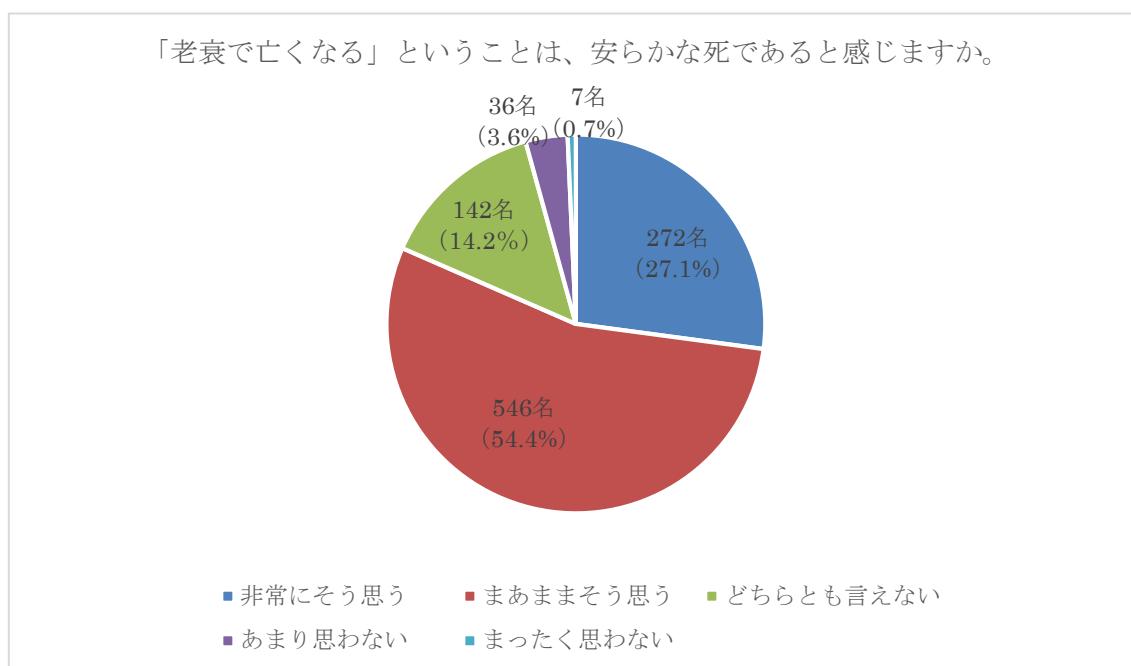
について、統計学的解析を行った。

3. 結果

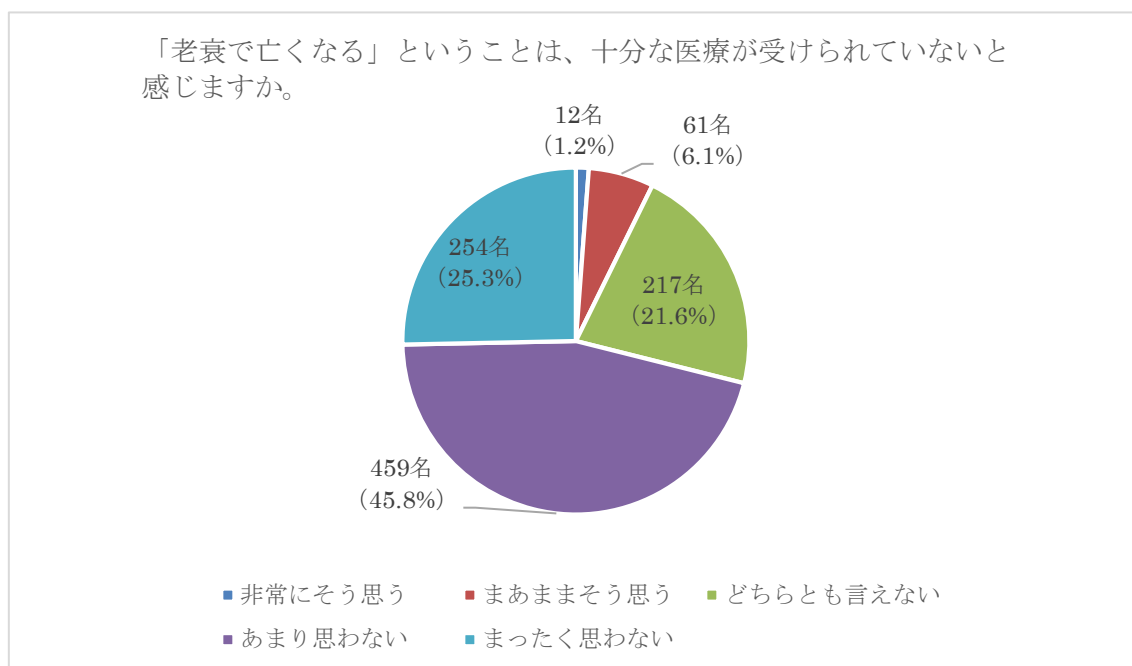
(1) 回答者の特性

	n	%
年齢 Mean(SD)	61.5 (±13.2)	
性別		
男性	473	47.2
女性	530	52.8
かかりつけ医の有無		
あり	476	47.5
なし	527	52.5
身近と思う人を介護した経験の有無		
あり	380	37.9
なし	623	62.1
身近と思う人との死別経験の有無		
あり	888	88.5
なし	115	11.5
職業		
あり	477	47.6
無職	526	52.4

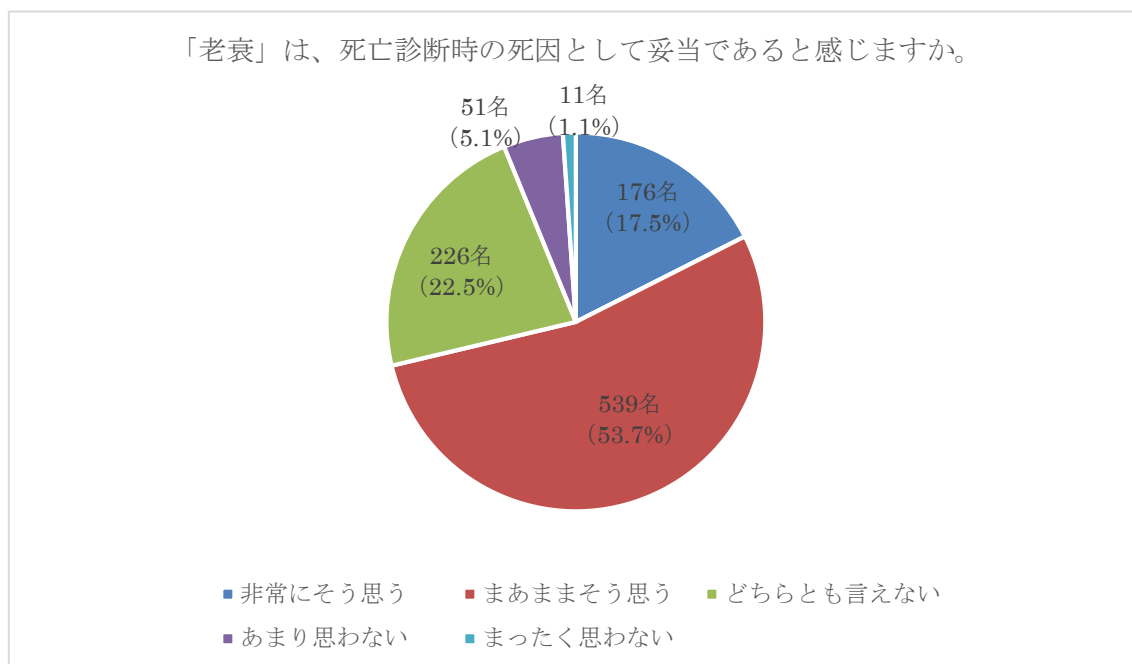
(2) 「老衰で亡くなる」ということに対するイメージ



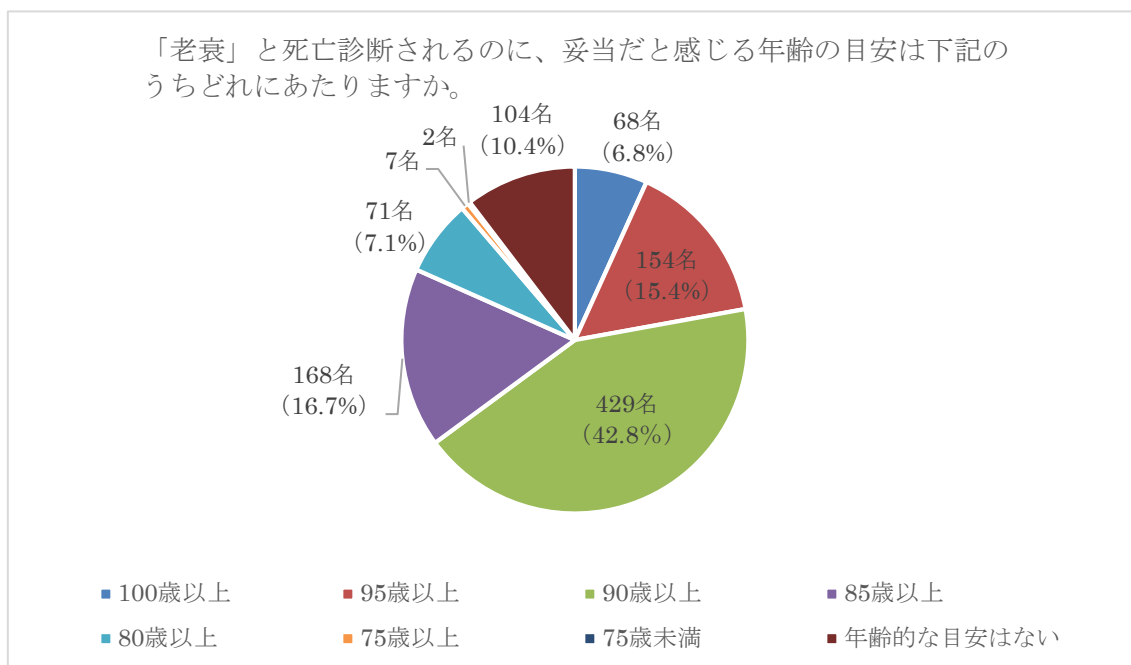
「非常にそう思う」27.1%、「まあまあそう思う」54.4%であり、8割以上の人が、「老衰で亡くなる」ということは安らかな死であると感じていた。



「非常にそう思う」1.2%、「まあまあそう思う」6.1%であり、「老衰で亡くなる」ということは十分な医療が受けられていないと感じている人は約7%と少数であった。

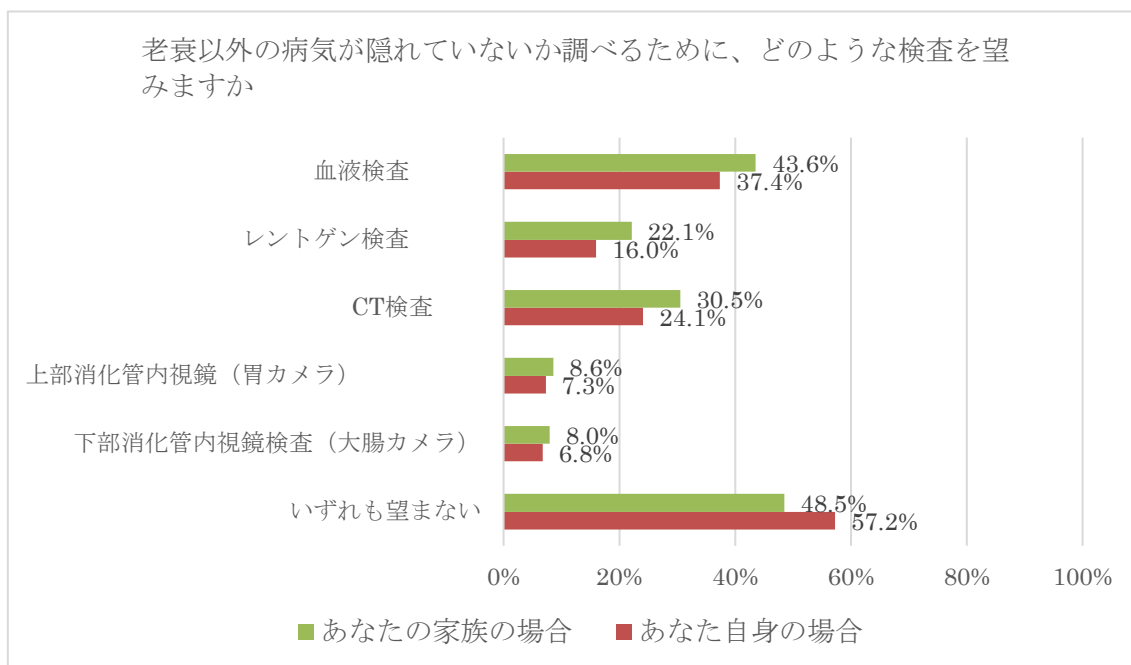


「非常にそう思う」17.5%、「まあまあそう思う」53.7%であり、7割以上の人が、「老衰」は死亡診断時の死因として妥当であると感じていた。

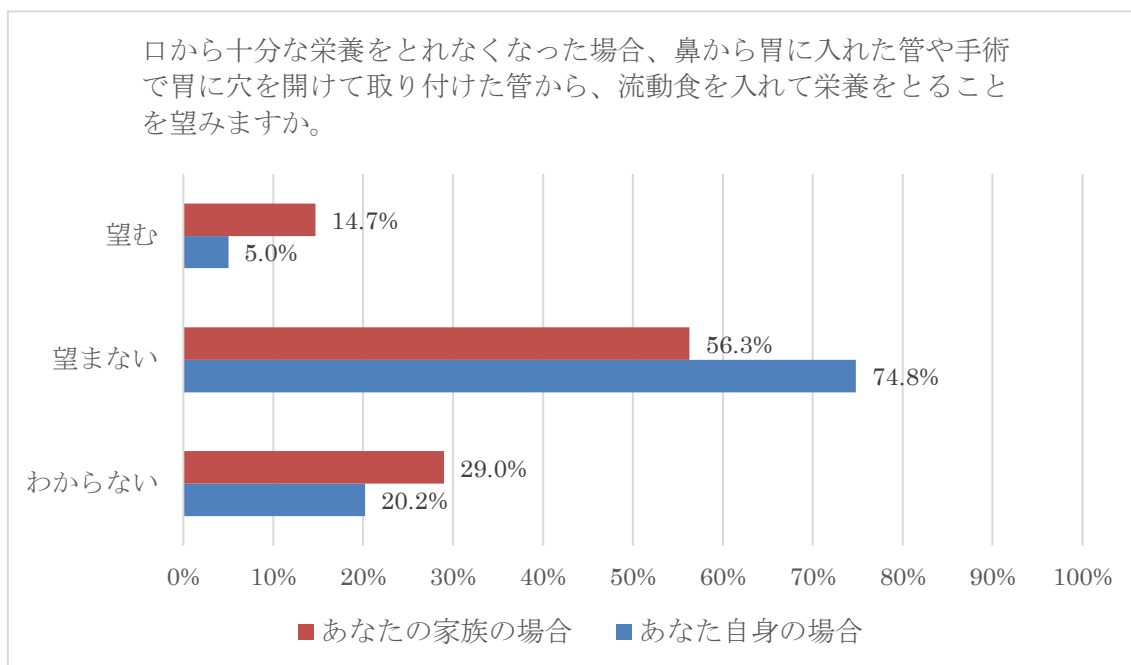


「老衰」と死亡診断されるのに妥当だと感じる年齢の目安は、90歳以上が最多（42.8%）で、次いで85歳以上（16.7%）、95歳以上（15.4%）の順に多かった。

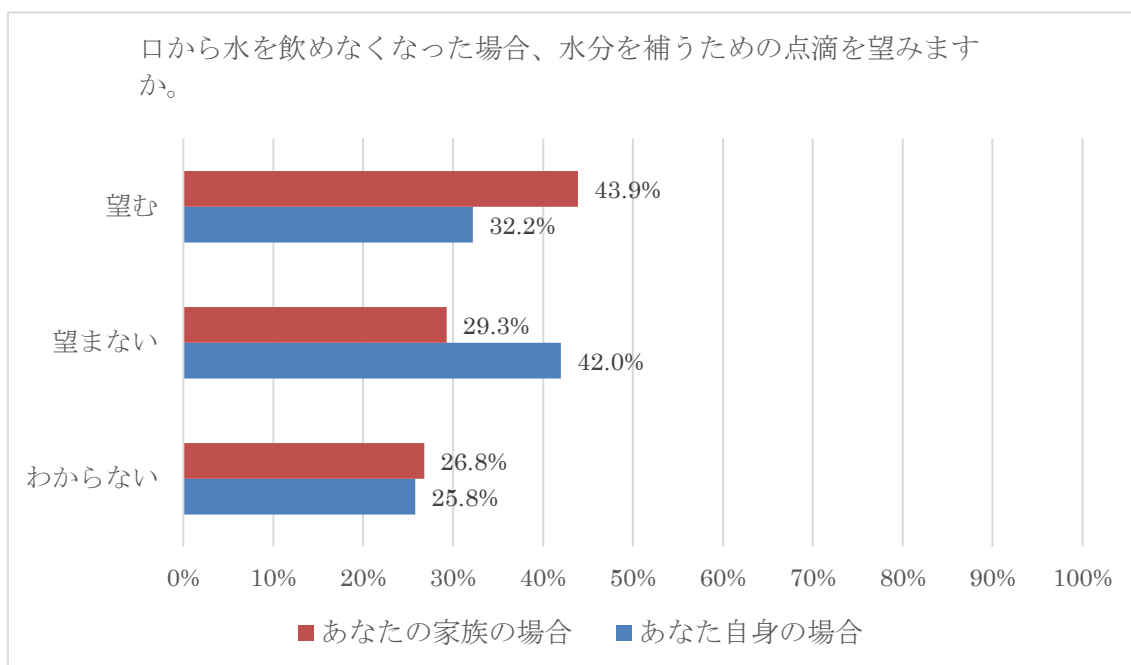
(3) 老衰と考えられる状態となったときに、どのような医療を希望するか



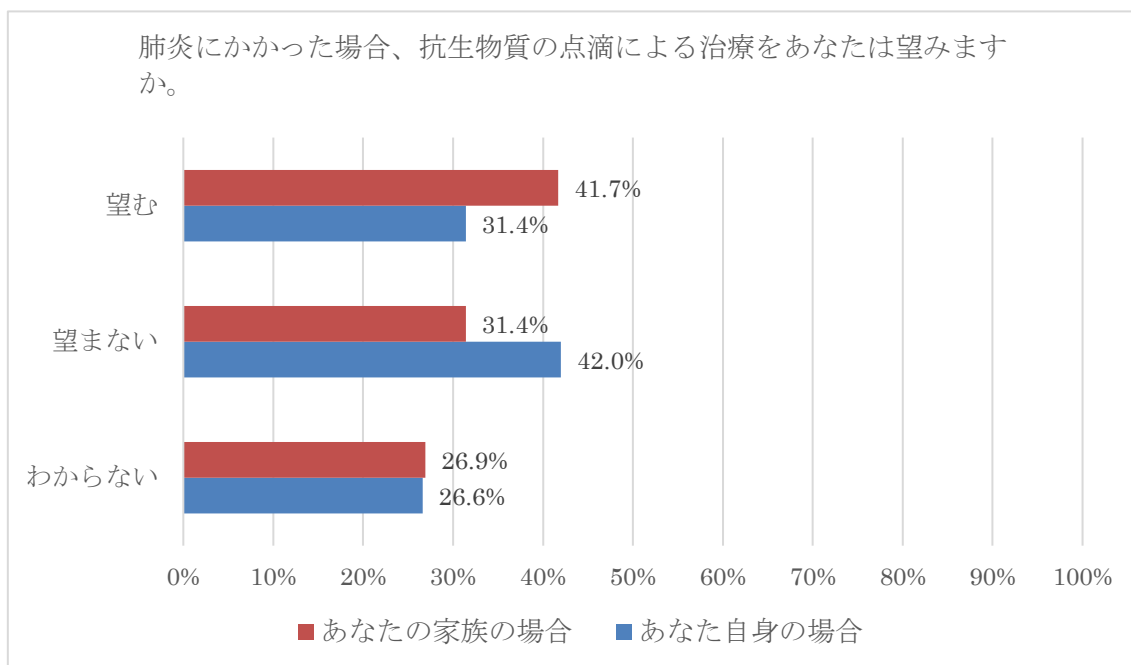
自身の場合も家族の場合も「いずれも望まない」が最多であった。全体的に、自身よりも家族の方がより検査を望む傾向があった。



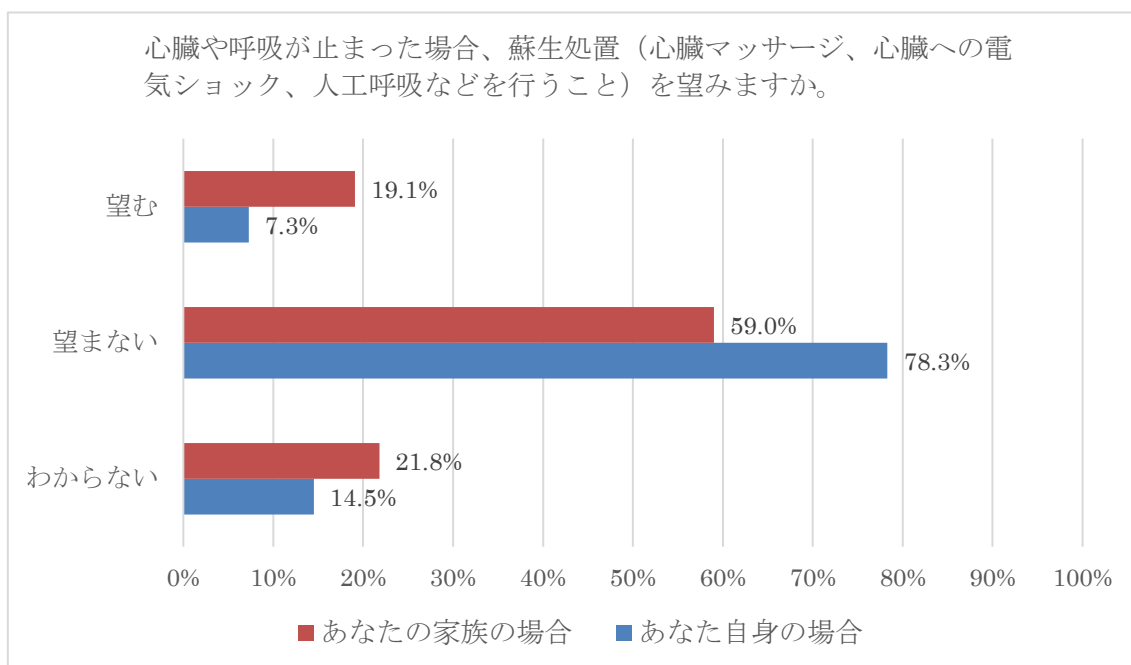
経管栄養に関しては、自身の場合も家族の場合も「望まない」が最多であった。自身よりも家族の方が経管栄養を望む傾向があった。



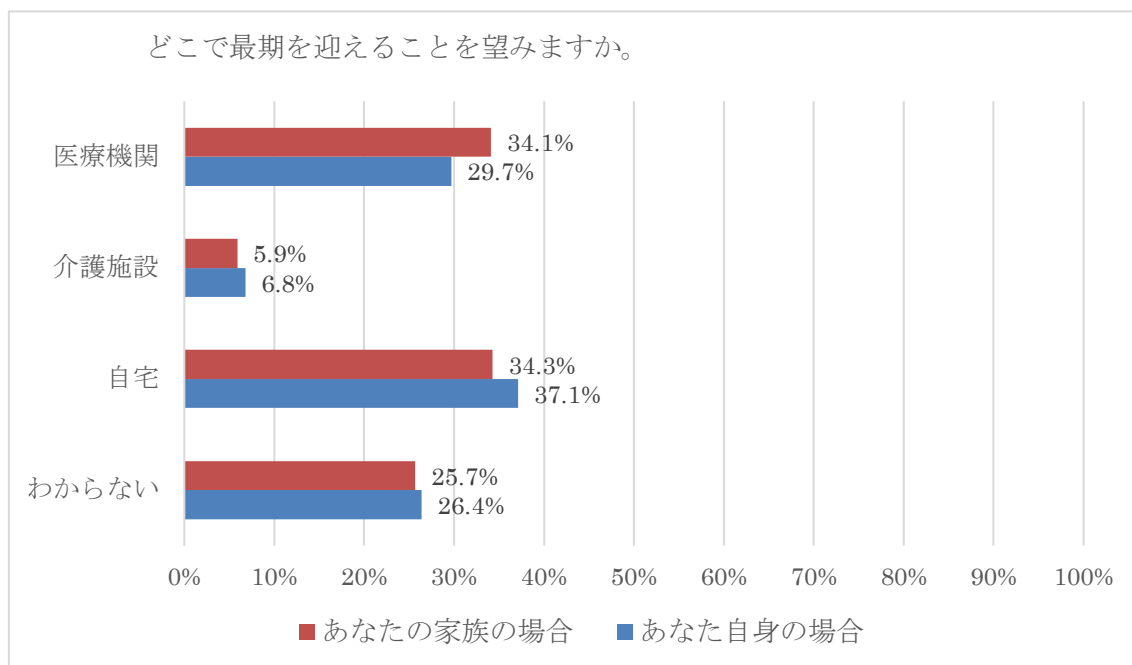
水分補給の目的の点滴に関しては、自身の場合は「望まない」が最多であったが、家族の場合は「望む」が最多であった。自身と家族の場合でギャップを認めた。



肺炎に対する抗生物質の点滴に関しては、自身の場合は「望まない」が最多であったが、家族の場合は「望む」が最多であった。自身と家族の場合でギャップを認めた。



心肺蘇生に関しては、自身の場合も家族の場合も「望まない」が最多であった。自身よりも家族の場合の方が心肺蘇生を望む傾向があった。



看取りの場の希望に関しては、自身の場合も家族の場合も自宅が最多であった。

(4) 「老衰を死亡診断時の死因として妥当と感じるか」の回答と、死生観尺度や対象者の特性との関連

「非常にそう思う」「まあまあそう思う」を妥当群、「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」を非妥当群とした。

	妥当群	非妥当群	P 値
年齢 Mean (±SD) **	61.6 (±13.0)	61.3 (±13.6)	0.73
性別・男 n (%) *	337 (47.1)	136 (47.2)	0.98
かかりつけ医あり n (%) *	340 (47.6)	136 (47.2)	0.93
身近と思う人を介護した経験あり n (%) *	281 (39.3)	99 (34.4)	0.15
身近と思う人との死別経験あり n (%) *	638 (89.2)	250 (86.8)	0.28
職業あり n (%) *	338 (47.3)	139 (48.3)	0.78
死生観尺度「死からの回避」 Mean (±SD) **	11.5 (±5.2)	13.3 (±4.9)	<0.01
死生観尺度「死への関心」 Mean (±SD) **	14.9 (±4.7)	14.8 (±4.5)	0.70

*カイ 2 乗検定 **t 検定

P<0.05 を有意水準とした場合、統計学的に有意であったのは、死生観尺度「死からの回避」

であった。

4. 今後の課題

前回の調査で、医師の老衰と診断する思考過程や診断における現状が明らかとなり、今回の調査で、一般市民が「老衰で亡くなる」ということに対してどのようなイメージを持っているか、老衰と考えられる状態となったときにどのような医療を希望するかについて明らかになった。今後は、医療者と市民が老衰患者に対してどのような医療を行うのが適切かについて論じていく必要があるであろう。それらの議論を促進するためには、老衰患者が終末期にどのような症状や合併症をきたしているかについて調査する必要があると考える。

5. 研究の成果等の公表予定

日本在宅医療連合学会・日本プライマリケア連合学会等の学術集会で学会発表予定である。また、論文投稿（日本語誌）を予定している。

文献

- 1) 今永光彦. 在宅医療において、医師が死因として「老衰」と診断する思考過程に関する探索. 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団による研究助成報告書 2014. 9. 1.
- 2) 今永光彦, 外山哲也. 在宅医療における死因としての老衰の診断に関する調査. 日本プライマリケア連合学会誌 2018;41(4)169-175.
- 3) 平井啓, 坂口幸弘, 安部幸志, 森川優子, 柏木哲夫. 死生観に関する研究 死生観尺度の構成と信頼性・妥当性の検証. 死の臨床 2000;23(1): 71-6.

資料

「老衰」に関するアンケート調査

- わが国の高齢者は急速に増加しており、超高齢者に特徴的な死因の1つである「老衰」の重要性が増すと考えられます。実際に近年、老衰死亡者数は急増しており、メディアでも取りあげられてきています。
- しかし、一般市民の方々が「老衰」についてどのように考えているのかについては明らかにされていません。本調査は一般市民の方々の「老衰」に関する意識を明らかにすることを目的としています。アンケートは5分ほどで終了いたします。
- 回答は研究目的として使用いたします。
- 回答は無記名であり、個人が特定されるような解析は行いません。個人情報が増えることや、不利益につながることはありません。
- 本調査は、2020年度笹川記念保健協力財団助成金（ホスピス緩和ケアに関する研究助成）を資金源として行っております。
- アンケートの趣旨をご理解くださり、回答を集計に使用させていただけることにご同意いただけますでしょうか。

() 同意する

() 同意しない

この調査について、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく下記までお問い合わせください。

連絡先：

〒349-0196 埼玉県蓮田市黒浜 4147

国立病院機構東埼玉病院 総合診療科

今永 光彦

電話：048-768-1161（病院代表） FAX：048-769-5347

下記の質問について、あてはまる数字を選択してください。

スクリーニング質問

1、あなたの性別を教えてください。

- 1) 男性 2) 女性

2、あなたの年齢を教えてください。

() 歳

3、あなたのお住まいを教えてください。

都道府県名 () ←実際にはブルダウン

「老衰で亡くなる」ということに対するイメージについてお聞きします。

4、「老衰で亡くなる」ということは、安らかな死であると感じますか。(1つを選択)

- 1) 非常にそう思う 2) まあまあそう思う 3) どちらとも言えない
4) あまり思わない 5) 全く思わない

5、「老衰で亡くなる」ということは、十分な医療が受けられていないと感じますか。(1つを選択)

- 1) 非常にそう思う 2) まあまあそう思う 3) どちらとも言えない
4) あまり思わない 5) 全く思わない

6、「老衰」は、死亡診断時の死因として妥当であると感じますか。(1つを選択)

- 1) 非常にそう思う 2) まあまあそう思う 3) どちらとも言えない
4) あまり思わない 5) 全く思わない

7、「老衰」と死亡診断されるのに、妥当だと感じる年齢の目安は下記のうちどれにあたりますか。(1つを選択)

- 1) 100 歳以上 2) 95 歳以上 3) 90 歳以上 4) 85 歳以上 5) 80 歳以上
6) 75 歳以上 7) 75 歳未満 8) 年齢的な目安はない

あなた自身やご家族が老衰と考えられる状態となったときに、どのような医療を希望するかについてお聞きします。

下記のシナリオを読んで、質問にお答えください。

Aさんは高齢となり、徐々に足腰の筋力が弱くなり、今は自力で歩くことができずにベッド上で生活することが中心となっています。おむつによる排泄となっており、着替え・入浴・食事も全て介助が必要な状態となっています。また、食事量も徐々に減ってきており、衰弱が進んできています。かかりつけの医師からは、老衰の経過と考えられる旨を伝えられています。医師は、このまま衰弱が進めば1年以内に亡くなると考えています。

8、上記のシナリオの A さんがあなた自身であった場合、老衰以外の病気が隠れていないか調べるために、どのような検査を望みますか。(複数選択可)

- 1) 血液検査 2) レントゲン検査 3) CT 検査
4) 上部消化管内視鏡 (胃カメラ) 5) 下部消化管内視鏡検査 (大腸カメラ)
6) いずれも望まない

9、上記のシナリオの A さんがあなた自身であり、口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から胃に入れた管や手術で胃に穴を開けて取り付けた管から、流動食を入れて栄養をとることを望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

10、上記のシナリオの A さんがあなた自身であり、口から水を飲めなくなった場合、水分を補うための点滴を望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

1 1、上記のシナリオの A さんがあなた自身であり、肺炎にかかった場合、抗生物質の点滴による治療を望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

1 2、上記のシナリオの A さんがあなた自身であり、心臓や呼吸が止まった場合、蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)を望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

1 3、上記のシナリオの A さんがあなた自身であった場合、どこで最期を迎えることを望みますか。(1つを選択)

- 1) 医療機関 2) 介護施設 3) 自宅 4) わからない

1 4、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であった場合、老衰以外の病気が隠れていないか調べるために、どのような検査をあなたは望みますか。(複数選択可)

- 1) 血液検査 2) レントゲン検査 3) CT 検査
4) 上部消化管内視鏡(胃カメラ) 5) 下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)
6) いずれも望まない

1 5、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であり、口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から胃に入れた管や手術で胃に穴を開けて取り付けられた管から、流動食を入れて栄養をとることをあなたは望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

16、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であり、口から水を飲めなくなった場合、水分を補うための点滴をあなたは望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

17、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であり、肺炎にかかった場合、抗生物質の点滴による治療をあなたは望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

18、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であり、心臓や呼吸が止まった場合、蘇生処置(心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと)をあなたは望みますか。(1つを選択)

- 1) 望む 2) 望まない 3) わからない

19、上記のシナリオの A さんがあなたの家族であった場合、どこで最期を迎えることをあなたは望みますか。(1つを選択)

- 1) 医療機関 2) 介護施設 3) 自宅

あなたの今の気持ちや考えについてお聞きします。以下の項目について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

20、私は死について考えることを避けている。(1つを選択)

- 1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

21、どんなことをしても死を考えることを避けたい。(1つを選択)

- 1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない

4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

22、私は死についての考えが思い浮かんでくると、いつもそれをはねのけようとする。
(1つを選択)

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

23、死は恐ろしいのであまり考えないようにしている。(1つを選択)

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

24、「死とは何だろう」とよく考える。(1つを選択)

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

25、自分の死について考えることがよくある。

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

26、身近な人の死をよく考える。(1つを選択)

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない
4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

27、家族や友人と死についてよく話す。(1つを選択)

1) 当てはまらない 2) ほとんど当てはまらない 3) やや当てはまらない

- 4) どちらともいえない 5) やや当てはまる 6) かなり当てはまる 7) 当てはまる

あなたのことについてお聞きします。

28、あなたには、かかりつけ医※がいますか。(1つを選択)

- 1) いる 2) いない

※かかりつけ医：健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと（日本医師会による定義より）

29、あなたは、あなたにとって身近と思う人を介護した経験がありますか？(1つを選択)

- 1) ある 2) ない

30、あなたは、あなたにとって身近と思う人の死を経験したことがありますか？(1つを選択)

- 1) ある 2) ない

31、あなたの職業は何ですか？(1つを選択)

- 1) 管理職 2) 医療職 3) 医療職以外の専門・技術職 4) 事務職
5) 販売職 6) サービス職 7) 保安職 8) 農林漁業職 9) 生産工程職
10) 輸送・機械運転職 11) 建設・採掘職 12) 運搬・清掃・包装等職
13) その他 14) 無職

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。